

行かんまいけ～

# 富山の博覧会



(富山県の中 右上より時計回り)  
「第七回関西府縣聯合共進會協賛會商議員尽力につき木杯進呈状」(高安家文書 富山県公文書館蔵)  
「四季 富山おどり」パンフレット (岩田家文書 富山県公文書館蔵)  
「富山産業大博覧会々場絵葉書」(海内家文書 富山県公文書館蔵)  
「富山県案内」(黒田家文書 富山県公文書館蔵)  
右: JETくん  
左: ピコちゃんマーク (TIME CAPSULE 石碑より 県民公園 太閤山ランド)



JETくん (福田繁雄氏制作)

令和7年10月2日(木)～11月3日(月・祝)  
開館時間: 午前9時～午後5時 (会期中無休)

入場  
無料  
FREE ADMISSION

# ごあいさつ

2025年は「大阪・関西万博」（正式名称：2025年日本国際博覧会）が開催されています。明治10年（1877）に東京上野で開催された第1回内国勸業博覧会を皮切りに、それをモデルとし近代化を目指した多くの博覧会や共進会が国内で開催されました。県内においても明治から平成にかけて様々な規模の博覧会や共進会が60ほど開催されましたが、時代ごとに特色が見られます。

この企画展では、県内で開催された6つの博覧会・共進会に焦点を当てました。明治・大正期の博覧会として、明治33年（1900）第七回関西二府十五県連合共進会と大正2年（1913）富山県主催一府八県連合共進会を取り上げ、近代化を進めていた日本の中で富山県の産業振興の様子とその背景について紹介します。続く昭和11年（1936）日満産業大博覧会では、戦争の気配が濃くなる戦前の日本において、東亜を意識し、貿易振興によって経済の発展に努めようとした富山県の様子を紹介します。戦後の昭和29年（1954）富山産業大博覧会では、富山大空襲の被害から戦後復興を果たし、民主化の影響を受けながら発展していく様子を紹介します。最終章で取り上げる、昭和58年（1983）富山県100年記念につぼん新世紀博覧会と、平成4年（1992）の第1回ジャパンエキスポ富山'92では、富山県の自然や郷土、伝統を慈しみつつも幾多の分野で21世紀という新たな時代の到来を待望する様子を紹介します。

これを機に、郷土の歴史の一端に触れていただくと同時に、富山県公文書館所蔵史資料への興味・関心を高めていただき、活用につながる機会となれば幸いです。

企画展を開催するにあたり、多くの方々や機関からご協力やご教示を賜りました。ここに、ご芳名を記して感謝の意を表します。

富山県立図書館 県民公園太閤山ランド

石神美子 岩田弘三 内田忠保 海内宏憲 木倉寿 久保真人 黒田沢子 小又政幸 高道章

高安悦郎 永井一正 福田靖子 山本千秋

株式会社スギノマシン トナミ運輸株式会社 株式会社DNPアートコミュニケーションズ

（順不同敬称略）

令和7年10月

富山県公文書館

## 目次

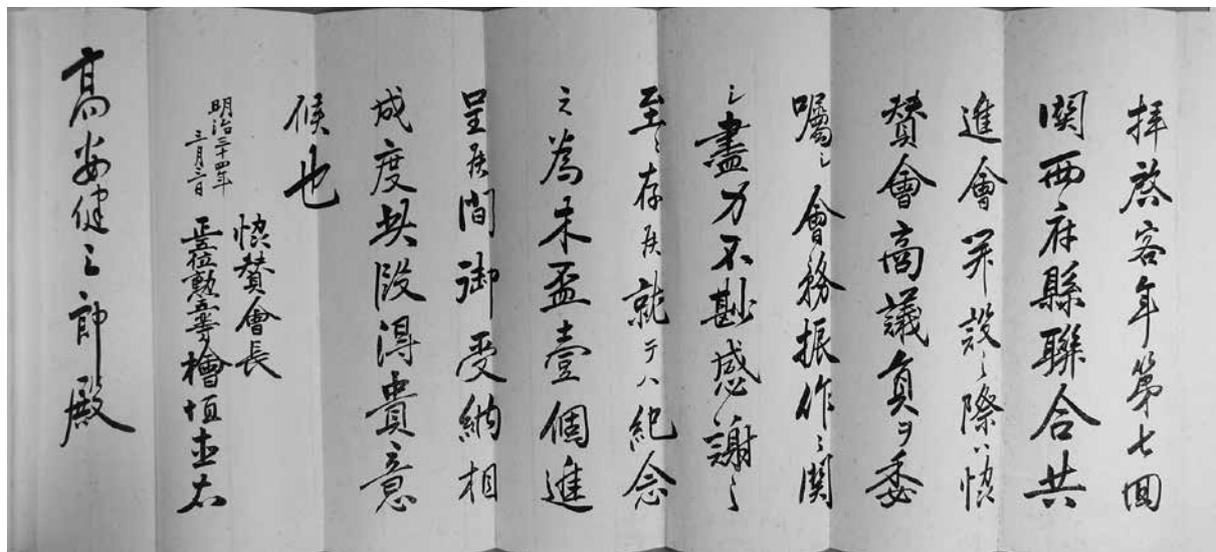
第七回関西二府十五県連合共進会 .....	2
富山県主催一府八県連合共進会 .....	4
日満産業大博覧会 .....	6
富山産業大博覧会 .....	9
富山県100年記念につぼん新世紀博覧会 .....	11
第1回ジャパンエキスポ富山'92 .....	13
関連年表 .....	17
企画展史資料一覧 .....	18

## 第七回関西二府十五県連合共進会

開催期間	明治33年（1900）7月1日～8月19日（50日間）
会場	上新川郡堀川村 富山県第一中学校（現、富山高校）
参加府県	大阪、京都、兵庫、石川、愛知、香川、愛媛、高知、広島、徳島、岡山、奈良、島根、福井、山口、新潟、富山
入場者数	155,000人
開催目的	①北陸線（米原－富山間）開通記念のため。 ②大火と水害で困難を極めていた富山県の経済の復興を促し、産業振興を図るため。
成果	褒賞授与式審査長 紫藤農商務省技師より「絹織物類は（中略）進歩の状あり 富山県の羽二重（中略）は特に然り」や「富山県高岡の銅器は形式意匠著色 特に一生面を開きたり」と、品質の良さやデザイン、色の付け方などに新しい工夫が見られたと富山県産品も評価を受けた（「北陸政論」明治33年8月7日）。
エピソード	本来は明治33年4月11日より旧富山城址で開催するはずだったが、同32年8月に富山市内で発生した大火により竣工間近の共進会会場も延焼の被害にあった。さらに同年は水害も多く、神通川や庄川などが氾濫し、県内に大きな被害をもたらした。県内の経済は大混乱を極めていた中だったが、こうした災害からの復旧復興のためにも、富山県知事金尾稜巖 <sup>かなおりようごん</sup> は産業を育成し、豊かにする殖産興業こそ県内の経済や産業には必要だと考え、共進会を中止にせず、約3か月間会期を遅らせて開催することに決めた。

### 第七回関西府県連合共進会協賛会商議員尽力につき木杯進呈状

明治34年（1901）3月3日



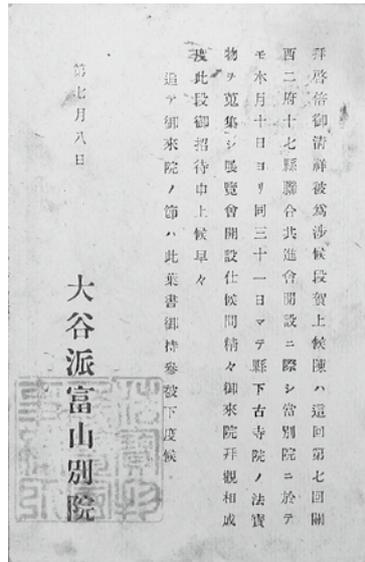
当時の富山県知事であり第七回関西府県連合共進会協賛会長を務めた<sup>ひがきなおすけ</sup>榎垣直右から、同会商議員として尽力した高安健三郎に贈られた木杯に添えられた進呈状である。

商議とは相談することの意であるが、前年3月に商議員を委嘱された高安健三郎は、上新川郡選出の県会議員を務めた。また、共進会開催地の堀川村（現、富山市）に居住していた。

（高安家文書 富山県公文書館蔵）

## 第七回関西二府十七県連合共進会につき当別院にて宝物展覧会開催の案内

明治33年（1900）7月8日



第七回関西府県連合共進会に併せて、県内の古寺院の宝物を集めて展示した展覧会の招待状である。7月10日から31日まで、真宗大谷派富山別院で開催された。なお、この案内状では二府十七県となっているが、正しくは二府十五県である。

共進会開催に併せて、富山市内では様々な催し物が開催された。

共進会の手引書であった『富山案内記』（富山県立図書館蔵）において、「開催場所未定」となっていた大日本私立衛生会第十八回総会が本願寺派本願寺富山別院で開催された。その他にも大法寺（現、富山市梅沢町）や光厳寺（現、富山市五番町）などの主要な寺院や県庁構内などで催し物が開催された。

（内田家文書 富山県公文書館寄託）

## 第七回関西府県聯合共進会場之全図

明治33年（1900）7月28日



会場全体を正面より俯瞰して描いたと推測される銅版画である。

「共進会場平面之図」（『富山案内記』より 富山県立図書館蔵）と併せて見ると、柵で囲った会場内へは正門横にある通券売下所で入場料を払って入ったことが分かる。その付近には、香川や徳島など各県の売店がある。

観覧者の中に洋装の男性の姿も描かれており、当時の最新の建造物や風俗の様子が窺える。

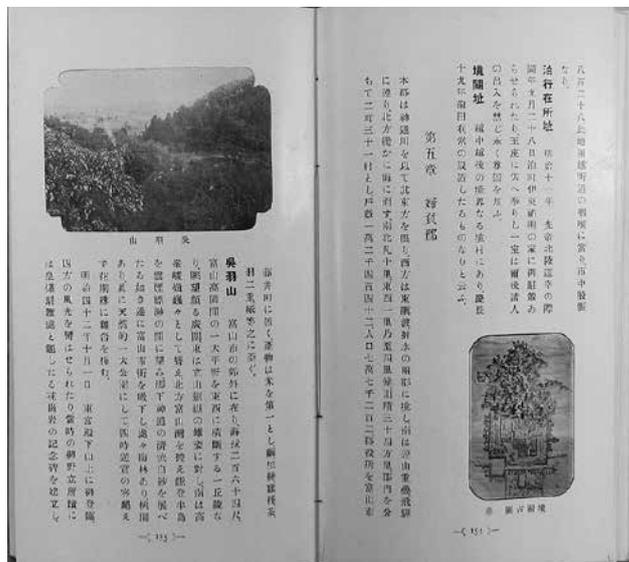
（富山県立図書館蔵）

## 富山県主催一府八県連合共進会

- 開催期間** 大正2年(1913)9月1日～10月20日 50日間
- 主催** 富山県
- 会場** 上新川郡堀川村(現、富山いずみ高校)、高岡市  
初代魚津水族館(9月21日～10月20日)
- 参加府県** 東京、新潟、栃木、群馬、滋賀、岐阜、福井、石川、富山
- 入場者数** 726,406人
- 開催目的** ①富直線(富山―直江津間)開通(大正元年)及び伏木港改築記念(明治45年)のため。  
②国内だけでなく対外輸出も見据えた産業の振興を図るため。
- 成果** 北陸、関西、関東の3つの地域が連携することで産業や経済に対する知識の育成や改良が図られ、国内外の通商貿易の発達を促した。特に、富直線の開通により交通インフラも整えられ、新潟県とは陸路においても物資の大量輸送が可能となった。
- エピソード** ①それまでの共進会出品物は農産物や工芸品が中心であったのに対し、化学工業品や意匠図案、機械や特許品が出品され、展示館として「特許機械館」が設けられた。明治期の日本産業は農業や紡績業などの軽工業が中心だが、大正3年(1914)のヨーロッパでの第一次世界大戦勃発により、日本でも重工業が発展した。富山県でも豊富な電力を活かした工場誘致が進み、同10年(1921)には農業県から工業県へと変化した。  
②共進会開催日に合わせて、富山駅と共進会会場を結ぶ富山電気軌道が開通した。現在、「市電」として親しまれている富山市内の路面電車の始まりである。

### 『富山県案内』

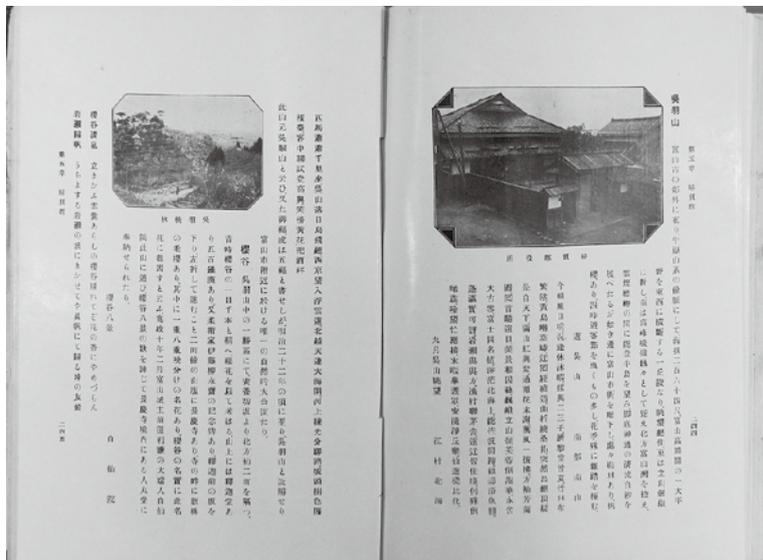
大正2年(1913)8月30日



富山県協賛会が発行した富山県を紹介した案内書である。全196頁、手帳サイズで携帯しやすい形式の本となっている。

「共進会会場」、「水族館」や、この共進会開催のきっかけとなった「富直線」などの巻頭写真と上・下の二編で構成されている。上編では交通や実業、教育や新聞雑誌、官公衙など主な県勢について、また下編では各市町村の名所や旧跡について、それぞれ写真を添えて紹介している。巻末には富山県管内図を載せている。

(岡崎家文書 富山県公文書館蔵)



同じく富山県協賛会発行の富山県を紹介した案内書で、全332頁、菊判サイズの本である。

岡崎家文書の『富山県案内』と比較すると、表紙の色は異なるも型押しされた上段の立山連峰や下段の共進会場、ユリをあしらった表題など装丁の構図は同じである。県勢などを紹介した上編と県内の名所や旧跡を紹介する下編の二編で構成されており、巻頭には共進会に関連した写真が、また巻末には富山県管内図が掲載されている。岡崎家文書のものより掲載写真が多く、より詳細に当時の富山県の様子を知ることができる。

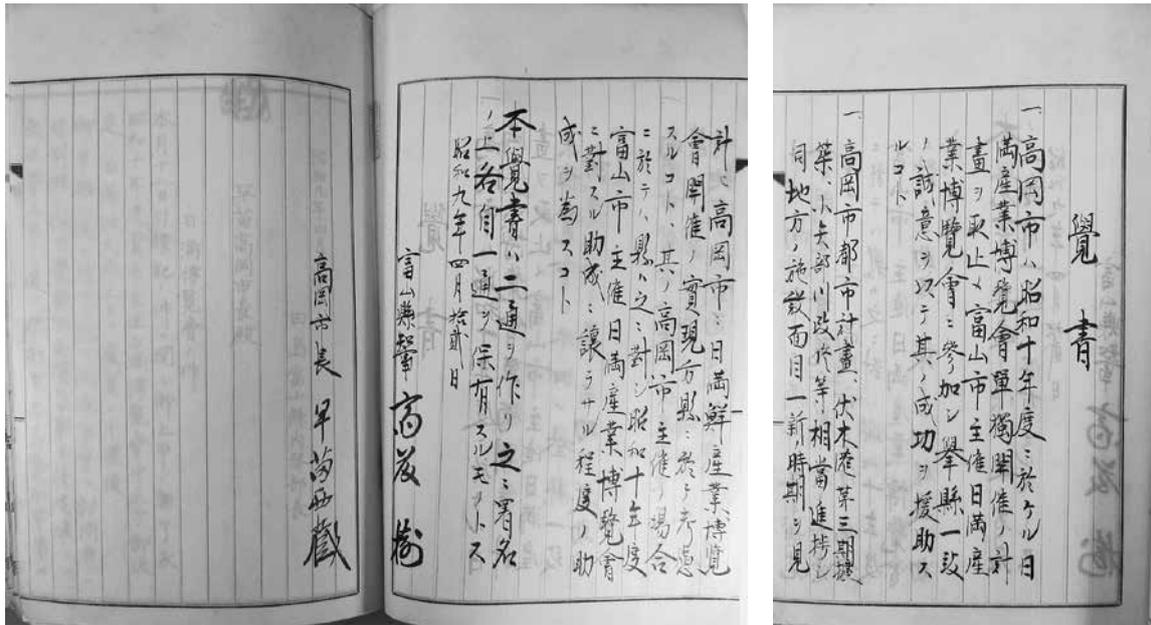
(黒田家文書 富山県公文書館蔵)

## 日満産業大博覧会

- 開催期間** 昭和11年（1936）4月15日～6月8日 55日間
- 主催** 富山市
- 会場** 神通川廃川地
- 入場者数** 913,030人
- 開催目的**
- ①高山本線開通記念（昭和9年）及び富山飛行場の開場（同8年）、富岩運河の開通（同10年）と東岩瀬港の修築（同11年）記念のため。
  - ②伏木と雄基（現、朝鮮民主主義人民共和国 羅先特別市）間の直通航路開通（昭和8年）による日満貿易の振興と両国親善のため。
- 成果**
- ①富山県が電力県であることだけでなく、アルミニウムや鋼材、化学工業などの工業分野にも秀でていることが広く「電気と工業の館」で紹介できた。
  - ②昭和3年（1928）に出された富山都市計画事業に基づき、神通川廃川地の有効活用ができた。
- エピソード**
- ①博覧会会期は、当初は昭和10年8月1日からの50日間であった。ところが、同9年7月9日に県内で大水害が発生し、家屋の浸水や流失、道路の決壊や橋梁の流失など多大な損害を被ったため、約8カ月の延期が決定された。さらに同10年冬の大雪や、会期が迫った同11年3月には強風により満州館の骨組みが倒壊するなど、幾度の危機を乗り越えての開催であった。
  - ②会場となった神通川廃川地は、昭和10年前後に大規模な開発がなされた。同11年2月に竣工した富山電気ビルディングもその一つである。日本海電気株式会社（現、北陸電力）の本社だけでなく、多くの旅客を収容できるホテルや大ホール、オフィスを兼ね備えた複合ビルであり、会期中は多数の関連行事も開催された。この他、富山県庁の竣工やNHK富山放送局の開局（いずれも同10年）、昭和会館の竣工（同11年）など博覧会を契機に開発が進み、富山市は近代的な都市となった。
  - ③昭和7年（1932）に建国した満州国は日本の傀儡国家であった。この博覧会の名称を、当初は「日満交通」や「日満親善」とする案が出ていた。しかし、「産業」という言葉が最も適当であるとして、「日満産業大博覧会」となった。当時、「満蒙軍事博覧会」（同7年、愛知県）や「国防と資源大博覧会」（同11年、兵庫県姫路市）など日本の対外進出や軍国主義的な要素が窺える博覧会が開催された中で、この博覧会は富山県が日本海交易の中心地となることを見据え、満州との交易により富山の産業発展を旨としたものであった。

## 博覧会開催地に関し高岡市長と県知事の覚書

昭和9年(1934)4月12日



昭和5年(1930)前後の昭和恐慌が落ち着いたころ、同7年より富山市と高岡市において、博覧会の開催を計画する動きがあった。このため、両市で主催者や開催地をめぐる協議が続けられた。

博覧会開催をめぐる争いは両市が互いに譲らない状態が続いたが、<sup>さいとういつき</sup>齊藤樹県知事と高岡市の木津太郎平、菅野伝右衛門、荒井建三との話し合いを経て、齊藤知事と高岡の早苗西蔵市長との間で覚書を交わすことで妥協が図られた。

その内容は、高岡市は博覧会計画を取止め富山市主催日満産業大博覧会に参加し、挙県一致の誠意を見せること、高岡市の都市計画等が進捗し、高岡市主催の博覧会が開催される場合には、県は富山市と同程度の助成を行うというものであった。

(富山県公文書館蔵)

## 「四季 富山おどり」パンフレット

昭和11年(1936)4月25日



博覧会場の演芸館で催された余興「四季 富山おどり」の紹介パンフレットであり、来賓に配付された。

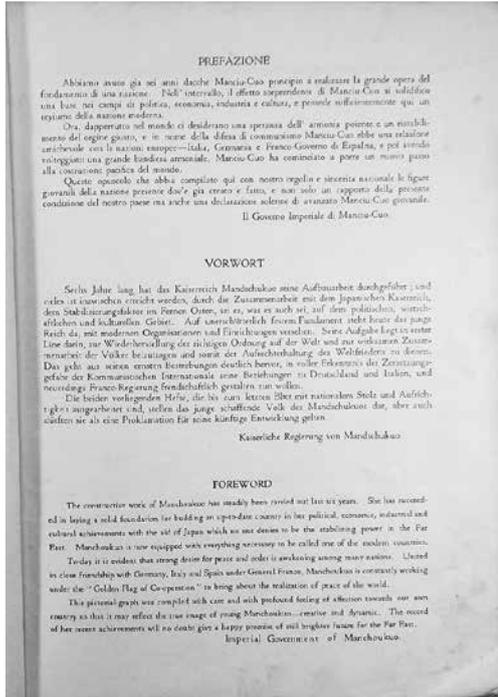
明治5年(1872)に開催された京都博覧会の余興で「都をどり」が披露されて以来、各地の博覧会でも当地の地名を冠した踊りが演じられた。日満産業大博覧会でも、富山の四季の名所・旧蹟や風物などを織り込んだ歌舞音曲が作られた。パンフレットには「序 越の中つ国 長唄」などの演目だけでなく、その踊りに関連する古聖賢人の詩歌・俳句や解説もあり、県の歴史の紹介も兼ねていた。

歌詞は、劇作家・邦楽作詞家の中内蝶二と富山県の詩人・新聞記者であった中山輝<sup>てる</sup>が作った。踊りは桜木町と東廓の芸妓が隔日交代で出演し、各街がそれぞれ作曲や作調、振付の工夫を凝らして上演した。

(岩田家文書 富山県公文書館蔵)

『若き満洲 写真に観る』

昭和13年 (1938)



昭和6年(1931)の満州事変により関東軍は占領した満州、内蒙古、熱河省を領土として、同7年満州国を成立させた。

この本は、日本語、イタリア語、ドイツ語そして英語で表記されている。同12年反ソ連の立場で結束し、日独伊三国防共協定を締結した喜びが巻頭言に記されているが、一方で三国は国際的孤立を深めていった。また、満州国の元号である「康德五年」や「満州帝国政府」と記されるも、中国語や満州語での表記はない。

同11年から始まった満州農業移民百万戸移住計画(満蒙開拓)で入植した村の様子や國務院などを望む首都新京の様子だけでなく、特急「あじあ号」や満州国の主要資源や農産物であった石炭や大豆・コーリアンの写真などが掲載されている。

(木倉家文書 富山県公文書館蔵)

## 富山産業大博覧会

<b>開催期間</b>	昭和29年（1954）4月11日～6月4日 55日間
<b>主催</b>	富山市・富山県
<b>会場</b>	富山城址公園（第1会場）、2代目魚津水族館（第2会場）
<b>入場者数</b>	697,447人
<b>開催目的</b>	①昭和20年（1945）8月2日未明の富山大空襲から復興した富山市の紹介のため。 ②電力県、産業県としての富山県の紹介のため。 ③人道主義・博愛主義に立脚した文化の紹介のため。
<b>成果</b>	①富山市内の商工業など地域経済に大きな影響を与えた。市内商店街が整備されることで、客足が増えるとともに商取引額も増加した。また、プラスチック産業など新たな産業分野も誕生した。さらに電力県であることをアピールできたため、新たな工場誘致も進んだ。 ②富山市公会堂や市庁舎、富山駅や富山郵便局などが建設され、加えて交通機関も整備され、富山市は景観美の備わった近代的都市として復興した。 ③戦後の混乱期から復興を成し遂げたという意識が県民や市民の中に芽生え、新たな希望をもつことができた。
<b>エピソード</b>	富山県が電力県であることをアピールした背景は、県が電力開発を再出発させた時期だったからである。戦時中、電気事業は国家統制を受け戦後も解かれず、戦後復興期は慢性的な電力不足であった。県は県営電気事業を復活させようと国へ働きかけたが、昭和25年（1950）11月24日に出されたポツダム宣言受諾に伴う命令（ポツダム政令）の電気事業再編成令により、県営電気の復元は事実上不可能となり、豊富な発電量を誇る黒部川・庄川水系は関西電力に帰属した。しかし、県は百瀬川の大長谷第一発電所の建設（同28年）を皮切りに井田川、上市川、小矢部川水系の開発を、北陸電力は神通川・常願寺川水系の開発を行い、電力県として富山を発展させていくこととなる。

### 富山産業大博覧会々場絵葉書

昭和29年（1954）



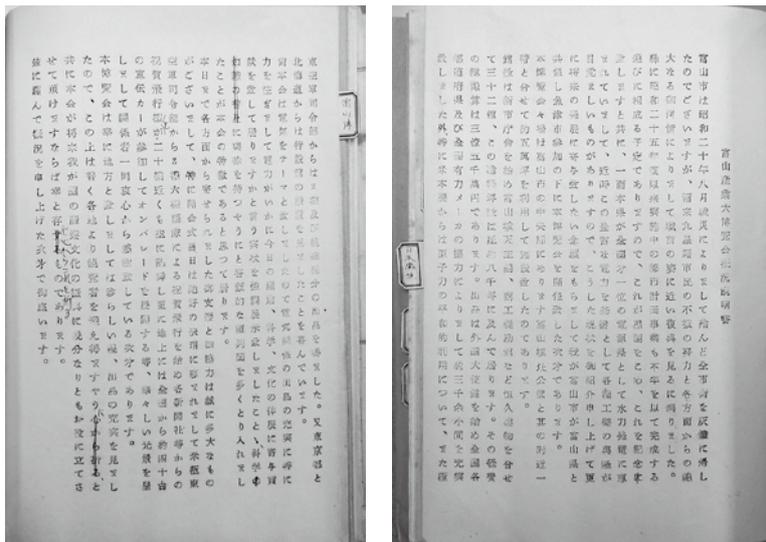
富山産業大博覧会の会場は、現在の富山城址公園や富山市役所の付近であった。戦後、城址には進駐軍の宿舎が建てられたため濠や石垣などは手入れが行き届いておらず、会場建設は手のかかる工事となった。

絵葉書は、現在の富山市役所付近にあった会場の正門から南方向を見る構図である。手前には桜が咲く松川と塩倉橋が描かれ、その奥には歯車のような飾りが壁面にある「郷土の歩み」館や「観光日本」館などがあり、右奥にあるテントのような丸屋根の建物の1階では「世界の文化」展、2階では「くすりの富山」展が開催された。このときに建造された富山城天守閣（現、富山市郷土博物館）では、「美の殿堂」展が開催された。奥には復興しつつある富山市の街並みも描かれている。

（海内家文書 富山県公文書館蔵）

# 富山産業大博覧会概況説明書

昭和29年（1954）



高松宮殿下への、富山産業大博覧会についての概況説明のために作成された文書である。

高松宮殿下は同年4月23日・24日に県消防大会に出席するために来県し、この博覧会も視察した。迎賓館において、博覧会長の富川安太郎富山市長から博覧会の概況について説明を受けた。

日本は昭和26年（1951）に独立を回復したが、概況説明には占領政策の影響も見られ、アメリカ大統領アイゼンハワーによる原子力の平和的利用の紹介や極東空軍からZ機（ジェット機）を借用して展示したことが説明された。当時のアメリカやソ連を中心とした核兵器開発競争や冷戦の影響が窺える。

（富山県）

# 富山市旅館案内図

昭和29年（1954）



富山市内の旅館について紹介した案内図である。

同23年にも県より富山市に対して博覧会開催の奨励があったが、観客の受け入れ態勢に不安があり辞退していた。そのため博覧会開催に向けて、市は富山市旅館組合と協議を図り、客室数や収容人員、浴場設備などの調査を行った。さらに、観覧客受け入れのための接遇対策も図られたが、この旅館案内図もその一環として作られた。

市内73の旅館に番号を振り、地図上に記載している。旅館は特とA～Dの5段階に料金分けされていた。朝・夕2食付き一泊の値段で、特階級では、1,500～3,000円、D階級では500円以下で宿泊できた。

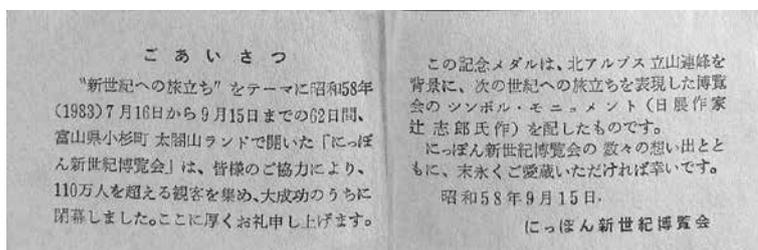
（富山県立図書館蔵）

## 富山県100年記念にっぽん新世紀博覧会

テ ー マ	新世紀への旅立ち
開催期間	昭和58年（1983）7月16日～9月15日 62日間
主 催 会 場	富山県・富山市・高岡市・富山県商工会議所連合会・富山地方鉄道・北日本新聞社 富山県射水郡小杉町 県民公園太閤山ランド
入場者数	1,136,832人
開催目的	置県百年を記念・祝賀し、富山県の生活や文化・経済の歴史並びに将来を的確にとらえ、その全容を展望し、県民のなかに新世紀を築く機運の醸成を図るため。
成 果	県民総参加の態勢を整えたことで、豊かなローカル色と獨創性に富んだユニークな地方博となった。出展者にも権能を持たせたことで、地元からの出展が半数以上を占めた。
エピソード	この博覧会は、明治16年（1883）5月9日に富山県が成立してから100年を記念する置県百年記念事業の一環として実施された。記念事業を実施するため県政に対する「県民の知恵」が募集され、博覧会の実施という意見が多数あった。昭和58年度は年間を通じて計93の記念事業が実施され、この他にも『置県百年』などの記念出版物の制作や、「富山産業展示館」（愛称：テクノホール）などが開設された。

### にっぽん新世紀博覧会記念メダル

昭和58年（1983）9月15日



にっぽん新世紀博覧会の閉会式で関係者に贈られた記念メダル及び添付の同博覧会挨拶文である。

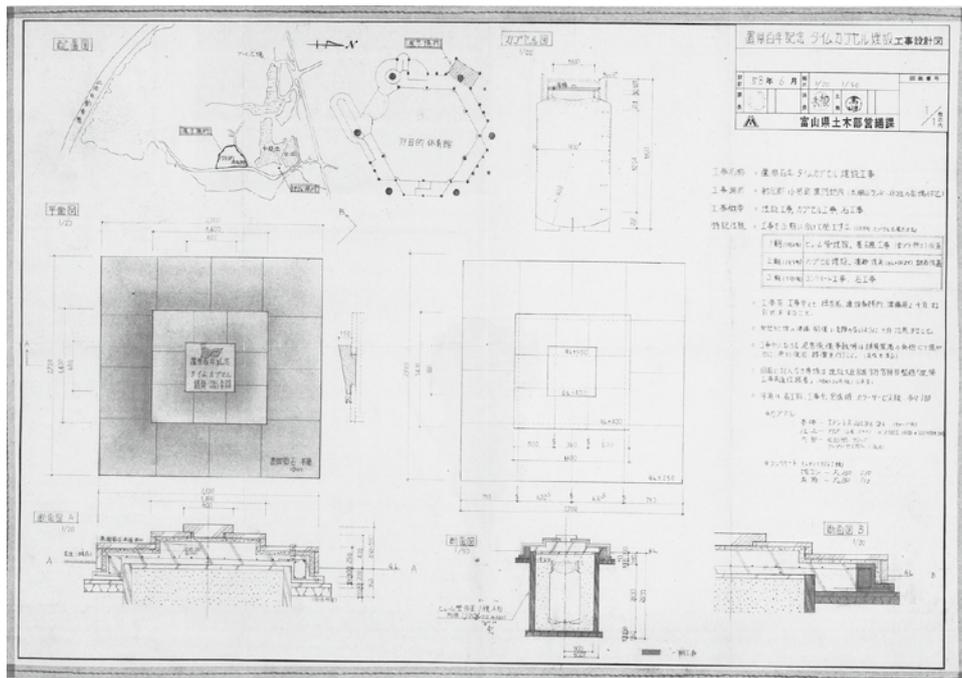
メダルには立山連峰を背景に博覧会で建造されたシンボルモニュメント「新世紀への旅立ち」（辻 志郎作）がデザインされており、金・銀の2種類、さらにそれらの大・小のサイズが制作された。掲載しているものは、銀の小サイズである。

デザインとして採用されたシンボルモニュメント「新世紀への旅立ち」は、県民公園太閤山ランドの水辺のひろばに現存している。

（県民公園太閤山ランド提供）

# 置県百年記念タイムカプセル埋設工事設計図

昭和58年（1983）6月



タイムカプセル埋設工事のために作られた青焼きの設計図である。

置県百年記念事業の一環として博覧会会期中の8月28日、県民公園太閤山ランド水辺のひろばにタイムカプセルを埋設することになった。設計書にはタイムカプセルや記念碑の設計図、工事の概要や行程などが記されている。設計は6月で、博覧会開会式の7月16日まで残り1カ月半を切った中で進められており、特記仕様の3つ目には「新世紀博の準備・開催に支障のないように十分注意すること。」という項目もある。

(富山県)

## 「置県百年タイムカプセルとやま1983。そのくらしと姿」リーフレット

昭和58年（1983）



埋設されるタイムカプセルやその収納物について紹介したリーフレットである。

埋設する目的や様式、収納物などが書かれている。タイムカプセルは昭和58年8月28日10時20分に埋設され、開封されるのは置県200年となる100年後の2083年である。錆に強いステンレス鋼製で、収納物が劣化しないようアルゴンガスが充填されるなど、100年間の埋設にも耐えるための工夫についても記されている。

県政アイデア委員会で検討した結果、広く一般県民からも収納物が公募されることになり、自然・くらし・社会の3つの項目に分けて103品目、約200点が未来へのメッセージとして収納された。

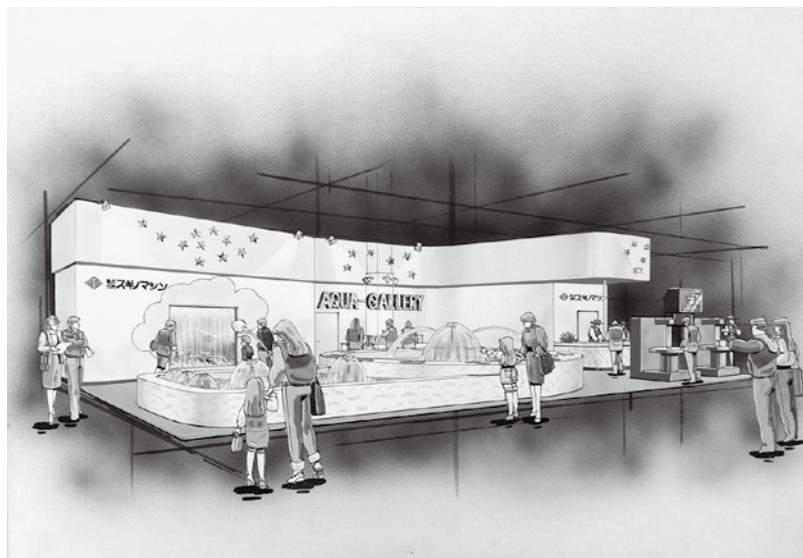
(富山県)

## 第1回ジャパンエキスポ富山'92

- テーマ** 人間—その内と外 富山から世界へ・未来へ
- キャッチフレーズ** 人って こんなに おもしろい!
- 開催期間** 平成4年(1992)7月10日～9月27日 80日間
- 主催** 富山県・富山県市長会・富山県町村会・富山県商工会議所連合会・富山県商工会連合会
- 会場** 富山県射水郡小杉町 県民公園太閤山ランド
- 入場者数** 2,365,893人
- 開催目的** 「富山は日本の未来劇場」という基本理念の下、人づくり、郷土づくり、産業づくりへの多様な展望のなかで、富山県民がグローバルな視野に立ち、県民総参加の下に幸せに満ちた新しい時代を招き寄せ、新しい飛躍を試みるため。
- 成果** 地域経済に大きな経済的効果をもたらした。平成の初頭はバブル景気(昭和62年～平成3年(1987～1991))が崩壊し、平成不況(平成3年～平成14年(1991年～2002年))が発生した時期であったが、この博覧会開催によって生じた投資や消費は全国で1,958億円の生産を誘発した。
- エピソード** ①博覧会で利用された出展物は、会場の太閤山ランドだけでなく、県内各地の公園や施設、市町村に博覧会終了後も県民が広く利用できるよう移設された。太閤山ランドには、多くの建造物などが現存している。
- ②県民一人ひとりが参加して企画・運営を行う博覧会として、準備・開催・運営全般に渡って県や市町村、民間団体が協力して作り上げる「富山方式」が採用された。子供たちの新鮮でユニークなアイデアを取り入れるため県内の小学生による「ジュニアプロデューサー」や博覧会をスタッフ全員で支えるという理念の下、業務分担を区別せず担う「JETメイト」の採用などが挙げられる。

### 「スギノ アクアギャラリー」パース図案

平成3年(1991)



株式会社スギノマシンが出展した「スギノ アクアギャラリー」の全景をイメージし、公式ガイドブックに掲載されたパース図案である。

「水とたわむれ、命を感じ、テクノロジーに触れる」というテーマの下、水の技術について紹介する展示であった。水をアーチ状やチューブ状、球体など形を変えて展示する「アクアタイム」、水で物を切る技術「アクアカッター」の実演、映像を水のスクリーン「アクアスクリーン」に映し出す展示などを行った。

なお、同社の展示は富山ジャパンエキスポ秀作賞(富山ジャパンエキスポ協会賞)を受賞した。

(富山県公文書館蔵)

## 「世界の遊具」 パース図案

平成3年(1991)



トナミ運輸株式会社が出展した「世界の遊具」のパース図案である。同社が製作したリーフレットに掲載された。

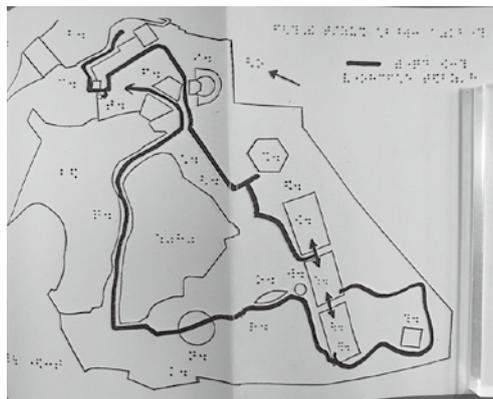
「遊びの新発見」というテーマの下、子どもたちに知的好奇心を刺激する遊び場を提供するという理念で出展された。この展示は、いきいき広場に設置された「星座の回廊」(富山ジャパンエキスポ協会出展)との複合展示であった。会期中は多くの子どもたちが遊び、中央のシェルターは、日よけや雨避けにもなった。

博覧会終了後、遊具は高岡市や砺波市、旧福岡町や旧庄川町、新川養護学校(現、富山県立にいかわ総合支援学校)へと寄贈された。

(富山県公文書館蔵)

## 点字ガイドマップ

平成4年(1992)



視覚障害者のために作成された点字ガイドマップである。

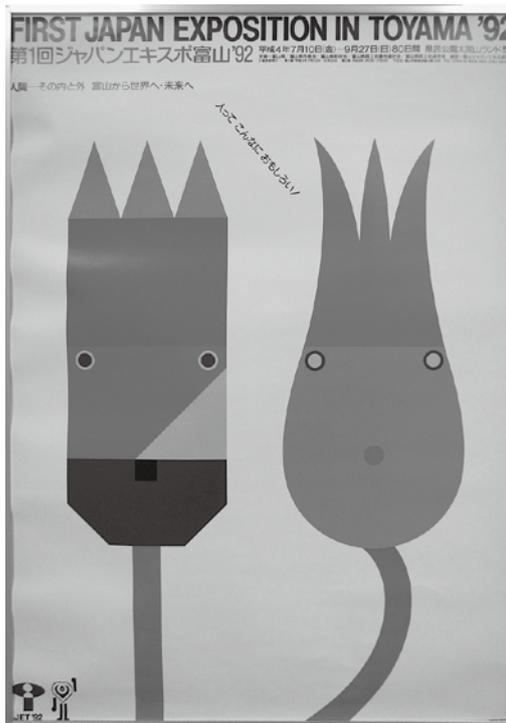
富山県の障害福祉課、富山県身体障害者福祉協会、富山県視覚障害者協会、富山県視覚障害者福祉センターの意見を聞き、富山県立盲学校(現、富山県立富山視覚総合支援学校)で作成された。

展示部分は、会場全体図である。この他、JETパビリオンの東館、中央館、西館の配置図も付けられている。会場施設には点字表示プレートも設置された。

(富山県)

公式ポスター

平成2～4年（1990～1992）



© Ikko Tanaka / licensed by DNPartcom

公式ポスターは5種類制作された。

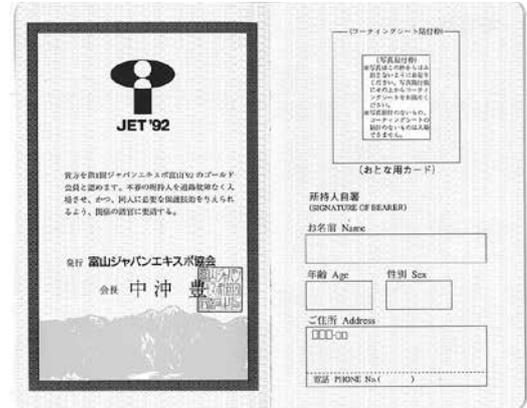
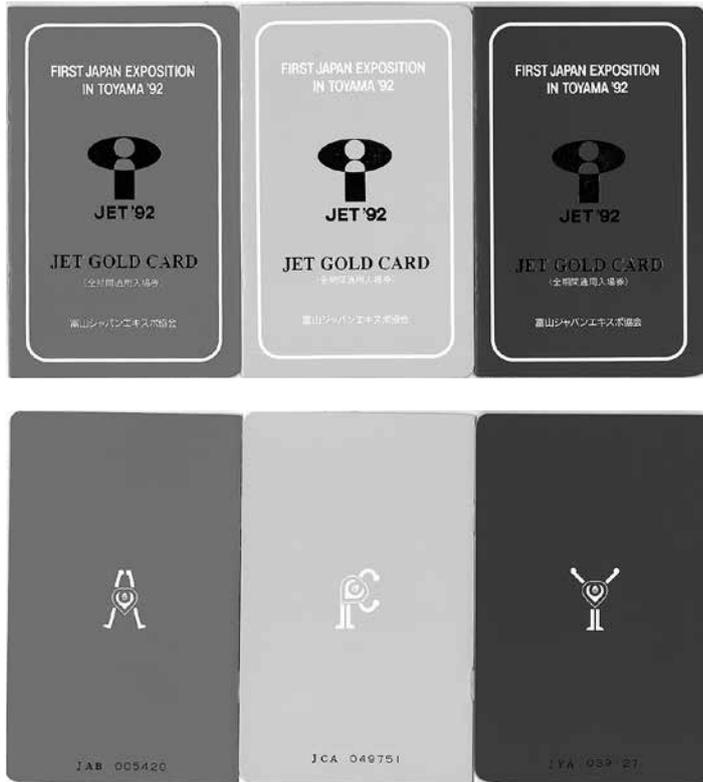
グラフィックデザイナーの永井一正氏、福田繁雄氏、田中一光氏による競作であった。第1号は平成2年9月10日に1種類、第2号は平成3年7月4日に3種類、第3号は平成4年3月30日に1種類それぞれ発表された。

公式ポスターは、JR主要駅や旅行エージェント、旅館やホテルの他、学校や各種団体、企業や関係機関、各都道府県などに配付された。一般からの入手希望者も多かった。

(富山県公文書館蔵)

## JETゴールドカード

平成4年(1992)



博覧会の全期間通用入場券である。観客誘致の基本方針として、何度でも来場してもらうために導入された。赤色は大人用、青色は生徒用、黄色は子ども用であり、入場者本人の写真を貼って持参すると、会期中何度でも入場することができた。前売り販売されており、13万8,082枚を売り上げた。

(富山県)

## シンボルマーク・JETくん栓抜き

平成4年(1992)



博覧会場でお土産として販売された栓抜きである。

博覧会のシンボルマーク(青、緑)と、マスコットJETくん(赤、黄)をイメージしたデザインとなっている。

(久保家文書 富山県公文書館蔵)

# 富山県内で開催された博覧会・共進会（品評会・展示会等も含む）

（『富山県史 年表』より抜粋）

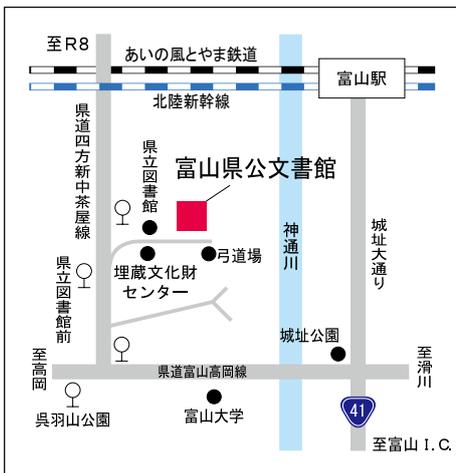
※太字が企画展で取り上げた博覧会・共進会

斜め字体はパネル展示

和 暦	西 暦	月	事 項
明治9年	1876	9	本県初の展覧会が大法寺（富山市梅沢町）で20日間開催される
明治16年	1883	5	米の共進会が砺波郡杉木新村で開催される
		7	繭糸の共進会が砺波郡井波町で開催される
明治18年	1885	11	富山県米繭糸共進会が大法寺で開催される（11.11～11.30）
明治20年	1887	8	生徒作品・授業用器具などの展示会（県主催）が県尋常師範学校で開催される（8.27～9.3）
明治27年	1894	5	富山市設勸業博覧会が富山物産陳列場で開催される（5.20）
明治29年	1896	10	富山工業品品評会の開場式が富山物産陳列場で挙行される（10.15）
明治31年	1898	4	畜産品評会が富山県畜産大会と合わせて初めて氷見町光照寺で開催される（4.18～4.19）
		11	県農会主催第1回農産物品評会が富山物産陳列場で開催される（11.26～12.6）
明治32年	1899	11	（社）富山県水産会主催第1回水産物品評会が魚津町で開催される（11.25）
明治33年	1900		<b>第7回関西二府十五県連合共進会が上新川郡堀川村で開催される（7.1～8.19）</b>
		7	新古美術展覧会が大法寺で開催される（7.15～30日間） 教育品展覧会が県師範学校で開催される（7.31～8.6）
明治40年	1907	4	県により第1回産牛馬共進会が富山市武徳会演武場で開催される（4.3）
		9	大日本蚕糸会富山支会により蚕種・繭・生糸の品評会が八尾町で開催される
大正2年	1913	9	<b>富山市主催一府八県連合共進会が上新川郡堀川村で開催される（9.1～10.20）</b> 新古美術展覧会（県工業会富山部会主催）が大法寺で開催される（9.16～10.15）
			御大典記念高岡物産共進会が開催される（11.6～11.20）
大正4年	1915	11	御大典記念地方史料展覧会が富山市立図書館で開催される（11.10）
			御大典奉祝農具・肥料展覧会（県農会主催）が高岡市坂下小学校で開催される（11.13～11.15）
			県内輸出品展覧会（県工業会富山部会主催）が富山市立物産陳列館などで開催される（11.1～11.10）
大正6年	1917	11	北陸4県連合園芸品評会が高岡市で開催される（11.3～11.5）
大正8年	1919	6	富山市制実施30年記念富山物産共進会が市立物産陳列館・県染織講習所で開催される（6.5～6.19）
大正10年	1921	8	第1回副業共進会（県農会主催）が富山市で開催される
大正11年	1922	8	学制頒布50年記念式（富山市主催）及び教育品展覧会が総曲輪小学校で開催される（8.4）
大正13年	1924	7	全国染織品展覧会が福野町で開催される（7.13）
大正15年	1926	11	北日本連合副業共進会が出町小学校で開催される（11.2～11.6）
昭和3年	1928	4	大日本消防協会富山県支部発会記念事業として消防展覧会（富山県消防義会主催）が開催される（4.14～4.18）
昭和4年	1929	10	富山県売業展覧会が富山商品陳列所・市立図書館で開催される（10.5～10.13）
昭和8年	1933	5	置県50周年記念資料展覧会（富山郷土研究会主催）が富山市立図書館で開催される（5.7）
		8	全国農具展覧会が富山中学で開催される（8.5）
昭和10年	1935	3	越中焼物展覧会（高岡美術協会・高岡文化会主催）が市立高岡図書館で開催される（3.15～3.17）
		5	富山県出身作家大美術展覧会（高岡新聞社主催）が高岡市商品陳列所で開催される（5.14～5.20）
昭和11年	1936	4	<b>日満産業大博覧会が富山市で開催される（4.15～6.8）</b>
		5	北陸4県農会により農村更生共進会が富山市で開催される（5.3～5.9）
昭和13年	1938	9	創作富山工芸展（富山県工芸会主催）が宮市大丸富山店で開催される（9.1～9.4）
昭和14年	1939	5	ドイツ国情展覧会（北陸タイムス社主催）が富山市商工奨励館で開催される（5.24～5.31）
		9	忠霊顕彰興亜聖戦記念大博覧会（高岡新聞社主催）が開催される（9.10）
昭和15年	1940	4	紀元2600年記念聖戦興亜博覧会（富山日報・北陸タイムス・北陸日日新聞各社共催）が開催される（4.10）
昭和17年	1942	4	大東亜戦争展（県・富山市・富山商工会議所主催）が宮市大丸富山店で開催される（4.1～4.5）
		9	第1回県工芸品展覧会（富山県工芸美術作家協会主催）が富山市商工奨励館で開催される（9.25）
昭和18年	1943	7	郷土の勤皇烈士顕彰彫塑展が宮市大丸富山店（7.1～7.7）、丸越高岡店（7.10～7.15）で開催される
昭和21年	1946	5	第1回輸出見本展示会（県主催）が高岡商工奨励館で開催される（5.27～5.31）
昭和24年	1949	9	富山市制60周年記念として婦人と子供博覧会（北日本新聞社主催）が開催される（9.20～11.4）
昭和26年	1951	4	<b>高岡産業博覧会（県・高岡市共催）が古城公園で開催される（4.5～5.25）</b>
昭和29年	1954	4	<b>富山産業大博覧会（県・富山市共催）が富山城址・魚津水族館で開催される（4.11～6.4）</b>
昭和30年	1955	10	世界動物大博覧会（北日本新聞社主催）が富山城址公園で開催される（10.1～11.3）
昭和32年	1957	6	北陸3県合同原子力平和利用大博覧会が高岡市古城公園で開催される（6.15～8.18）
昭和35年	1960	9	全国の印刷物・機械などを展示する第9回印刷文化展が富山市体育館で開催される（9.8～9.12）
		10	第1回近代工業機械展（富山市・富山商工会議所主催）が富山市体育館で開催される（10.21～10.30）
昭和40年	1965	5	ソ連極東物産展（全ソ極東貿易事務所主催、県ソ連極東物産展受入協議会協力）が県民会館で開催される（5.3～5.9）
昭和48年	1973	3	富山中国友好・貿易展が県民会館で開催される（3.3～3.7）
昭和58年	1983	7	<b>置県100年記念にっぽん新世紀博覧会が県民公園太閤山ランドで開催される（7.16～9.15）</b>
		11	とやま国際貿易展が開催される（11.2～11.6）
平成4年	1992	7	<b>第1回ジャパンエキスポ富山'92が県民公園太閤山ランドで開催される（7.10～9.27）</b>

# 企画展史資料一覧

		史資料名	所蔵	実物	パネル	パンフ	年月日	請求番号/整理番号
明治・大正期 ～産業振興をめざした博覧会～	第七回関西二府十五県連合共進会	告示第5号「第七回関西府県連合共進会規則改正」(富山県報)	富山県公文書館	○			明治33年1月13日	
		第七回関西府県連合共進会協賛会商議員尽力につき木杯進呈状(高安家文書)	富山県公文書館	○		○	明治34年3月3日	二-119
		第七回関西二府十七県連合共進会につき当別院にて宝物展覧会開催の案内(内田家文書)	富山県公文書館寄託	○		○	明治33年7月8日	
		第七回関西府県連合共進会場の全図	富山県立図書館	○		○	明治33年7月28日	
		告諭第1号「第七回関西府県連合共進会開催につき告諭」(富山県報)	富山県公文書館		○		明治33年1月13日	
	富山県主催一府八県連合共進会	『富山案内記』	富山県立図書館		○		明治33年7月	
		「共進会場平面之図」(『富山案内記』)	富山県立図書館		○		明治33年7月	
		『富山県案内』(岡崎家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年8月30日	八〇-3
		『富山県案内』(黒田家文書)	富山県公文書館	○		○	大正2年8月30日	
		共進会会場の写真(『富山県写真帖』山本家文書)	富山県公文書館		○		大正2年9月15日	
昭和初期 ～東亜を意識した博覧会～	日満産業大博覧会	富山県主催一府八県連合共進会図面要覧	富山県公文書館		○		大正2年	B-4-26
		大正初期の富山電気軌道(『置県百年』)			○		昭和58年	
		博覧会開催地に関し高岡市長と県知事の覚書	富山県公文書館	○		○	昭和9年4月12日	D-125-9
		昭和会館の図面	富山県公文書館	○			昭和9年	D-124-1
		「四季 富山おどり」(岩田家文書)	富山県公文書館	○		○	昭和11年4月25日	
		『若き満洲 写真に観る』(木倉家文書)	富山県公文書館	○		○	昭和13年	
		日満産業大博覧会場配置図(『富山市主催日満産業大博覧会誌』)	富山県立図書館		○		昭和12年	
		昭和9年庄川の水害の様子	富山県公文書館		○		昭和9年	A-181
		「電気ビルディング全景」(『伸び行く富山県』北陸タイムス社付録 高道家文書)	富山県公文書館		○		昭和10年8月17日	
		「日満産業大博覧会ポスター」(『伸び行く富山県』北陸タイムス社付録 高道家文書)	富山県公文書館		○		昭和10年8月17日	
戦後 ～復興博覧会～	富山産業大博覧会	昭和会館写真(『富山自治 昭和11年5月号 第114号』小又家文書)	富山県公文書館		○		昭和11年5月15日	
		富山産業大博覧会々場絵葉書(海内家文書)	富山県公文書館	○		○	昭和29年	一-579
		富山産業大博覧会概況説明書	富山県	○		○	昭和29年	
		富山博覧会場内各館配置図	富山県	○			昭和29年	
		『富山産業大博覧会誌』	富山県公文書館	○			昭和32年	
	高岡産業博覧会	富山産業大博覧会御案内	富山県立図書館	○			昭和28年	
		富山市旅館案内図	富山県立図書館	○		○	昭和29年	
		「富山産業大博覧会展望見取図」(『富山博 4.11⇒6.4』)	富山県立図書館		○		昭和29年	
		戦後の富山市北部工業地帯の様子(『置県百年』)			○		昭和58年	
		昭和30年ごろの富山駅前の様子(『写真集富山県百年』北日本新聞社)			○		平成元年6月10日	
昭和後期・平成初期 ～21世紀に向けての博覧会～	富山県100年記念につばね新世紀博覧会	総曲輪通の戦後復興と人々の様子(『置県百年』)			○		昭和58年	
		高岡市産業博覧会の会場案内図(『置県百年』)			○		昭和58年	
		「小牧ダムパノラマ」とロボット「電吉君」(『高岡産業博覧会誌』)	富山県立図書館		○		昭和27年	
		高岡産業博覧会(時事通信社付録「特集 産業富山の展望」 木倉家文書)	富山県公文書館		○		昭和25年10月1日	
		100年記念館会場構成基礎・展示物設計に係る仕様書	富山県	○			(昭和57年)	
	第1回ジャパンエキスポ富山'92	につばね新世紀博覧会記念メダル	県民公園 太閤山ランド	○		○	昭和58年9月15日	
		置県百年記念タイムカプセル埋設工事設計図	富山県	○		○	昭和58年6月	
		置県百年タイムカプセル収納物品目案	富山県	○			昭和58年8月13日	
		「置県百年タイムカプセルとやま1983.そのくらしと姿」リーフレット	富山県	○		○	昭和58年	
		県民公園 太閤山ランドの全体写真(県広報とやま No.176)			○		昭和58年9月	
「富山県置県百年記念事業一覧」(『富山県置県百年記念事業報告書』)				○		昭和59年3月		
マスコットマーク「ピコちゃん」(『富山県100年記念につばね新世紀博覧会公式記録』)				○		昭和59年6月20日		
展示館 新世紀とやま県民館(『富山県100年記念につばね新世紀博覧会公式記録』)				○		昭和59年6月20日		
「スギノ アクア ギャラリー」 パース図案		富山県公文書館	○		○	(平成3年)		
『ジャパンエキスポ富山'92 公式ガイドブック』		富山県	○			平成4年6月1日		
『ジャパンエキスポ富山'92 公式記録』		富山県	○			平成5年3月15日		
「世界の遊具」 パース図案		富山県公文書館	○		○	(平成3年)		
「世界の遊具」リーフレット		富山県	○			平成4年		
公式ポスター		富山県公文書館	○		○	平成2年～平成4年		
第1期ジャパンエキスポ富山'92 サイン計画		富山県	○			平成3年9月11日		
「運営スタッフの基本的な考え方」より「2.名称とユニフォーム」	富山県	○			平成3年12月20日			
エキスポとやま博JETメイト大募集(募集要項)	富山県	○			平成4年			
「第1回ジャパンエキスポ富山'92 JETハーティ(ボランティア)募集要項」	富山県	○			平成4年3月30日			
点字ガイドマップ	富山県	○		○	平成4年			
英語版リーフレット	富山県	○			平成4年			
JETゴールドカード	富山県	○		○	平成4年			
特別記念入場券(久保家文書)	富山県公文書館	○			平成4年			
県民太閤山ランドJETトレンエキスポとやま博利用乗車券	県民公園 太閤山ランド	○			平成4年			
シンボルマーク・JETくん栓抜き(久保家文書)	富山県公文書館	○		○	平成4年			
ジャパンエキスポ富山'92宣伝用ハガキ類	富山県	○			平成元年～平成4年			
会場全体図と上空から会場を見た写真(『第1回ジャパンエキスポ富山'92公式記録』)			○		平成5年3月15日			
JETパビリオン前に勢ぞろいしたJETメイトたち(『第1回ジャパンエキスポ富山'92公式記録』)			○		平成5年3月15日			
シンボルマーク(『第1回ジャパンエキスポ富山'92公式記録』)			○		平成5年3月15日			
JETくん(『第1回ジャパンエキスポ富山'92公式記録』)			○		平成5年3月15日			



## 交通機関

### JR富山駅発バス

- 北代循環(県立図書館前)下車……………徒歩5分
- 新港東口行、四方向(県立図書館前)下車 ……徒歩5分
- 高岡・小杉方面行(呉羽山公園)下車……………徒歩10分

